



# NEWS

2008 No.213

12月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

## 近づきつつある電気自動車新時代

# CO<sub>2</sub> 排出削減に向け、モデル事業で普及に弾み 技術蓄積で世界をリードする日本

電気自動車の普及が始まろうとしています。暗い話題が多い中で、近未来の話を追ってみました。

09年度からは地域を絞り、充電インフラを整備しながら電気自動車の需要を生み出すモデル事業が始まろうとしています。

「電池性能がまだ不足」という意見もありますが、最新型車は十分な実用レベルにあるようです。



10月にオープンした日本最大級のショッピングセンター、イオンレイクタウン(埼玉県越谷市)にも急速充電ステーションが設置された。電気自動車の普及に向けて周辺インフラ整備も着々と進んでいる

電気自動車で現在最も普及が進んでいるのは、トヨタ「プリウス」に代表されるガソリン+電池のハイブリッド車(HEV)です。夢の車としてはホンダ「FCX」のような燃料電池自動車(FCEV)がありますが、大量普及にはまだまだ時間がかかりそうです。

そして今、普及しだそうとしているのが、電池(バッテリー)で動く電池自動車(BEV、以下バッテリーカー)と、HEVの電気性能を充実したプラグインハイブリッド車(PHEV)になります。

バッテリーカーの代表格が、三菱自動車の「i(アイ)MeEV」と富士重工業の「R1e」で、それぞれ軽自動車ベースに開発され、電力会社に提供されて試験走行を重ねています。バッテリーカーは過去にも何回か登場しましたが、大きく普及することがありませんでした。そうした過去のバッテリーカーに比べると、まもなく市販されようとしているものは、大きく性能向上が図られています。

まず駆動部のモーターは、直流モーターから

交流モーターに変わり、最新のモーターは「交流同期モーター」へと進歩を遂げました。モーターの進歩に対応して制御方式も進歩し、交流同期型インバーター制御により、高出力化が図られ、小型のモーターを効率よく駆動できるようになりました。そして電池は、鉛蓄電池からリチウムイオン電池へと変わっています。

例えば三菱自動車の「iMeEV」は、ガソリンの

ベース車に対して同じ居住スペースを持ちながら、車両重量は1080kgと、わずかプラス180kgにとどまっています。こうした車両の軽量化は電池、モーターそして制御技術の進歩の結果です。モーターの最高出力は47kWで、ターボ付エンジンのベース車と同じですが、最大トルクは180N・mで、94N・mのベース車のほぼ倍。一気に最大トルクまで上昇するモーターのトルク性能によって発進加速性能はベース車以上、0-80km/h加速は10.3秒で、ベース車の性能を1.1秒縮めています。

ただし、最高速度は130km/hで、充電1回当りの走行距離は10・15モードで測定し160kmにとどまります。エアコンをつけた状態での走行距離は10・15モードより2割ほどダウンするそうです。それでも買い物や送迎といった日常生活で使うならこの走行距離は十分なのですが、これを200kmまで伸ばすことを目標に開発が進められているところです。

そして最新のバッテリーカーのもうひとつの特徴が、家庭の電源でも充電できることです。従来は、外部の充電器が必要でしたが、車両側に充電器を備えており、充電の仕方は①家庭用200V(充電時間7時間)②同100V(充電時間14時間)、および現在設置が進められている③急速充電器による充電・三相交流200V(30分)の3通りです。

話題の大規模ショッピングモール、「イオンレイクタウン」(埼玉県越谷市)にも急速充電器が設置されました。深夜電力でじっくりフル充電し、レイクタウンでお買い物。そのとき電池残量が帰宅するのに足りなくても、急速充電で問題なしという具合です。

そして、ハイブリッド車でバッテリーによる走行距離を拡大するため、外部電力による充電を可能にしたのが、プラグインハイブリッド車ということになります。この場合の外部電力は家庭の電源を考慮しており、通常の自動車同様にガソリンでも走行できるため、急速充電器への対応は考えていません。トヨタ自動車が「プリウス」をベースに開発したプラグインハイブリッド車は、バッテリー走行で13km(10・15モード走行)、このときの最高速度は100km/hで、100Vで3~4時間でフル充電となります。バッテリーの走行距離を30kmに伸ばし、都市部の走行はほぼEV走行でまかなう方向で開発が進められています。

日本のEV開発は世界をリードしています。電気自動車の国際標準化作業でも、数々の提案を行い採用されています。社会的にもCO<sub>2</sub>の削減で注目される電気自動車、日本の自動車メーカー各社の動きは目を離せません。

各地で積極的にリサイクル部品をPR

# 整備業界、損保の皆様とも連携して普及に努めます

NGP協同組合の加盟各社は、リサイクル部品の認知度アップのために、全国各地であらゆる機会をとらえて、積極的にPRに取り組んでいます。地域イベントへの出展のほかに、見学やインターンシップなどで学生を受け入れてもいます。整備業者のお客様のために、感謝を込めて勉強会も開きます。

リサイクル部品の普及はCO<sub>2</sub>排出削減につながり、地球環境の保護につながると確信しています。これからも積極的なPRを通じて、修理の現場でリサイクル部品の利用促進を支援していきます。

## 永田プロダクツ(山形県) 損保のセンター職員にリサイクル部品をプレゼン

永田プロダクツ(山形県酒田市)は、BSサミット山形支部が損害保険会社のセンター職員の方を招待して開いた芋煮会で、リサイクル部品の紹介を行いました。BSサミットの山形支部長からの要請に応えたものです。損保会社でもリサイクル部品の利用を進めようとしています。リサイクル部品を詳しく知らないという職員が多いのが現状です。そこでリサイクル部品と解体部品の違い、あるいはリビルド部品との違いや保証と

いった基本的なことを分かりやすく解説した資料をつくり、紹介しました。

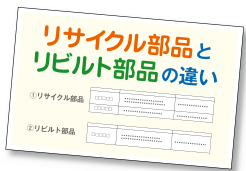
芋煮会は山形県の秋の年中行事で、BSサミット山形支部は損保会社のセンター職員の方を招待して10月に置賜地区、庄内地区、山形支部の3カ所で芋煮会を開きました。解説資料をラミネートに作成し、NGP協同組合が作製した「リサイクル部品ならCO<sub>2</sub>を削減できる」などの資料や同社オリジナルの煎餅をセットにしたものを渡し、リサイクル部品についての知識を深めてもらいました。あいおい損害保険、富士火災、日本興亜火災の職員の方が、芋煮会に参加していました。

このほか、同社はインターンシップの受け入れも行っています。今年7月に行われた地元



インターンシップ恒例のエンジン解体、苦労しただけ喜びも大きい

の酒田市立第三中学校の「職場体験実習チャレンジワーキング」で2年生男子生徒4名が同社を訪れ、リサイクル部品生産現場を3日間に渡って体験しました。受け入れは今年で4回目、恒例となった最終日のエンジン解体は悪戦苦闘の連続で、解体完了まで4時間かかりましたが、終了と同時に「面白かった」と歓喜の声が上がり、満足そうでした。リサイクル部品のファンがまた増えたようです。



リサイクル部品の基本を解説したオリジナル資料も作成、提供しました

## 多田自動車商会(兵庫県) 三木金物まつりで市民向けPR



三木金物まつりは三木市を挙げての一大市民祭、テントがぎっしりと並び2日間で18万人が訪れる

多田自動車商会(兵庫県三木市)は「三木金物まつり2008」に出展し、自動車リサイ

クルとリサイクル部品をPRしました。このイベントは、昭和27年に三木金物見本市として始まった伝統行事で、今では多彩なイベントが行われる市民祭として定着しています。11月1、2日の2日間の開催で、訪れる人は18万人。昨年のお阪モーターショーが4日間で36万人の動員でしたから、それに匹敵するイベント規模になります。

イベント会場は三木市役所前広場。同社のブースには、大阪モーターショーで活躍したカットモデルやリサイクル部品スタンドが置かれるとともに、リサイクル部品がどのようなもので、どのように作られるか

を解説したパネルを展示しました。大阪モーターショー同様にレゲエの演奏付きで、ひっきりなしに訪れる来場者にリサイクル部品の利用を呼びかけました。

また、市民と楽しむイベントということで、自動車メーカー各社のエンブレムを並べ、1個100円で販売したところ飛ぶように売れたそうです。この売り上げは、交通遺児育英会に寄付することになっています。



エンブレムは1個100円、めずらしさも手伝って飛ぶように売れた

## エコブリッジ(青森県)が設立5周年感謝の記念セミナー

エコブリッジ(青森県八戸市)は11月16日、八戸市内の八戸グランドホテルにお客様である整備工場の皆様を招待し、会社設立5周年の記念セミナーを開きました。セミナーは「くるまやしん兵衛」のペンネームでお馴染みのプロジェクトサーブ代表の井上眞さんが講師を務め、60名ほどのお客様を前にリサイクル部品によるビジネスなどの整備事業の改善提案を行い、整備事業者の経営者を元気づける話をしました。

エコブリッジの中里明光社長は、東北自動車という整備工場も経営しています。エコブリッジの設立は02年9月、設立当初

は整備の同業者からの批判などもあったそうですが、自動車リサイクルに関することをはじめ、整備事業経営に役立つさまざまな情報を提供してお客様との取引関係を作り上げました。こうした取り組みの延長で勉強会を開き、取引先の整備工場の皆様に感謝の気持ちを表しました。

セミナーの冒頭、あいさつに立った中里社長は、下落した最近の素材市況とそれともなう関連情報を提供、さらに整備工場から排出する産業廃棄物の有料化に向けた新たな取り組みを紹介しました。また「車検受注も新車販売も厳しいとき、試したことを

どんどん情報として提供し、いろいろな情報を発信することで今後も皆様の役に立っていきたい」などと述べました。



記念セミナーの講師をプロジェクトサーブの井上眞代表に依頼、感謝の気持ちをこめて明日へのヒントを提供した



支部選出理事に聞く 第1回 九州支部 倉内和寛理事

# 取引先との関係強化が取り組み課題 本部で段取りしたことを支部でしっかり深掘り 支部を挙げてクレーム削減し部品販売を拡大

九州支部から選出された倉内和寛理事。温厚な人柄で、信頼も厚く九州のブロック長、支部長を経験しています。現在、理事として総務広報委員会を担当、「組織の若返りを図る必要がある」との持論から、九州支部では支部選出の理事と支部長を分けました。

—九州支部で取り組んでいることは

「対外的な関係をしっかりしたいと考えています。BSサミットの九州支部とも話し合いを持ち、いろいろな意見を交換しました。NGPダイレクトの導入などにしても、本部同士で提携しても、現場がしっかり動かなければうまくいきません。本部がお膳立てしてくれたことを支部としてしっかりフォローすることを心がけたいと思っています。そのために対外関係強化を意識して、今年8月からいろいろなPR活動を進めて、現場のパイプを太くしようと努めているところです」

—BSサミットさんとの話し合いの成果はどうだったのですか

「相手からの注文を聞き、改善できるところ

は改善しました。BSサミットのメンバーに対してそれぞれの組合員が営業活動を行いました。それ以前、売上は伸び悩んでいたのですが、おかげさまで営業活動実施後は点数、金額ともに2.5倍程度に伸びています」

—ほかにどのような本部施策のフォローを

「あいおい損保さん、JA共済さんからの事故車の引き取りも行っていきます。とくにJA共済さんとは、枠組みがリニューアルしたので、各県本部に営業に行きました。現在、あいおいさん、JAさんともに全損車の引き取りは80%程度と高いのですが、対物車両の引き取りは10%にとどまっています。条件は厳しいのですが、これを高めるように努力したいと思っています」

—資源価格の下落で再び部品という同業者も増えています

「NGPのブランドを高めるためには、クレームの撲滅が必要です。支部を挙げてクレームの撲滅に取り組んで、NGP品質の強化に努めます。営業活動との両輪で取り組めば、さらに

差別化でき、NGPの部品販売が大きく伸びると思っています」

—九州支部は、理事と支部長とを分けました

「私自身、ブロック長の経験もあるし、支部長を任されたこともある。今回、理事を受けるにあたって、若返りを図る必要があるだろうとあって、理事と支部長職を九州支部では分けることにし、支部長はオートパーツ伊地知の伊地知志郎社長にお願いしました。組織の活力を維持するために人を育てることも大事なことだと思っています」



倉内和寛(くらうち・かずひろ)  
ユービー宮崎代表取締役 1951年4月生まれ 57歳

静岡県自動車整備商工組合のイベントにNGP組合員が出展

## リサイクル部品のPRで会場を盛り上げる

静岡県自動車整備商工組合が主催した「フェスタ2008第14回大展示特売会」に静岡県内のNGP組合員各社が出展し、自動車リサイクル部品で会場を盛り上げました。フェスタは、静岡県内の整備事業者にとって恒例となった祭典で、沼津、静岡、浜松市の



東部地区会場では3社合同で環境問題をPR、奥にはリビルト部品も並べた

3会場で開催されました。11月16日に沼津市の「キラメッセ沼津」で開かれた東部地区会場は、ヤタパーツ、太田部品の組合員とメイト会員のアンドカーパーツが合同でブースを出展しました。木彫りのNGPマークとその横のAプレスが目立っていました。新たなパネルも作り自動車リサイクルの啓蒙と地球環境に優しいリサイクル部品をPR、特売会ということでブースターパックを格安販売しました。

またマルトシ青木は3会場すべてのフェスタに出展、ブースに置かれたまるまる1台分のリサイクルパーツが目立っていました。マルトシ青木で取り組んできた「エコボックス」について、パネル展示とともに資料を配布、資源リサイクルの大切さを訴えました。



マルトシ青木は車1台分のリサイクル部品をドーンと展示このフェスタ、日ごろお客様となる整備事業者の皆様が運営の主体です。損保会社も出展するこのようなイベントに積極的に参加、協力することで、整備事業者の皆様と太い関係を作り上げて行きたいと考えています。

### NGP 今月のCO2削減量

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP平成20年10月: 7,356,903kg (全12団体計: 13,817,931kg)

1月からの累計: 70,538,044kg (全12団体計: 134,444,986kg)

## 第17回初級営業マン研修会を実施

### 未来への布石、この時期に育つ営業マンは各社の礎

第17回初級営業マン研修会が11月17～19日の3日間、東京都江東区夢の島のBumB東京スポーツ文化館で開かれました。経営環境が激変した直後で受講者は8人と少ないものの、各社が即戦力を期待する若い力が集まり、活気溢れる研修会になりました。電話対応のロールプレイングなども熱が入り、少数精鋭で密度の高い研修でした。

リサイクルガレージケーワンの田草川純一さんは、講義の内容をたくさんノートに書き留めました。「営業に出るときはノートを持って、暇なときに再度見直してレベルアップを図りたいです。決意表明の目標数値を超えることができるよう精一杯、あきらめずに頑張ります」と誓っています。

また、桃太郎部品の小林祐治さんは研修を通じて「不景気だからと言ってお客様と傷をなめ合うわけには行きません。今すべ



営業は厳しい時代を切り拓く重要な戦力。講義で相手の現況を学び、心をつかむ会話をどう切り出すか。ロールプレイングでその実践が鍛えられる

きことは市場の変化を把握し、補修部品業界のリーダーとして、研修で学んだことをお客様にぶつける（提案する）ことです」と意欲を示しています。イノクチの猪口秀毅さんも「学んだことを駆使して1件でもリピーターを増やしてリサイクルパーツを世に送り出したい。整備工場約9万件、会社に戻り助



ける気持ちで共に考え、会社の発展のためにがんばりたい」と話していました。参加者全員が「商の心」の一端をつかむことができたようです。



## CO2 排出削減パンフレットを一新 子供たちが手に取りやすく、家庭で親しみやすく

自動車リサイクル部品がCO2排出削減につながることを訴えるパンフレットを一新しました。恒例となった「エコプロダクツ」をはじめとするさまざまなイベント出展で、多数の子供たちがブースへ訪れることを考えて、親しみやすい表紙デザインとしたのが特徴です。さらに家庭の中でもリサイクル部品のことを話題にできる企画内容を盛り込みました。

パンフレットはA4版3つ折。小さい子が描いた溶け出した雪だるまが、CO2の削減

を訴えかけます。メインの記事は、リサイクル部品を利用することでどれだけCO2排出削減につながるかを示し、リサイクル部品の利用促進を呼びかけています。削減数値を樹木のイラストでも表現し「リサイクル部品の森」を表しました。また、リサイクル部品を利用したお客様の声や家庭でできるCO2削減への取り組みを数値とともに載せています。

こうしたツールを使って、リサイクル部品のCO2削減効果をさまざまな機会に訴え、

家庭に浸透させることが、リサイクル部品の市場を広げることにつながります。もちろん今回開催された「エコプロダクツ2008」でも、このパンフレットを多くの方々に配布しました。



親しみやすいデザイン、内容にモデルチェンジ

## 組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北海道	株式会社社商会	会社代表	代表取締役 高橋 忠一	20年10月25日

### NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp

### (株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201